

やまがら

2019年
秋号
No.36

松山市議会議員
梶原ときよし



やまがら(山雀)

毎年、冬には自宅に来てくれます。

一人ひとりが大切にされる 人間尊重社会を実現しよう。

- 官民癒着や税金の無駄遣いをやめさせ、高い市民負担を軽減させよう！
- 教育と子育て予算を増額し、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換させよう。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍する街にしよう。
- 伊方原発をやめて、自然エネルギーへの転換を促進しよう。(PPS電力の利用促進)
- 命、人権、環境、平和を大切に、子どもたちに安心未来を引き継ごう。



発行・梶原ときよし

それは、元愛媛県知事であった加戸守行という人物が与党候補の応援で、大勢の市民がいる中、永江候補を誹謗中傷しただけでなく、「昨年7月に起きた西日本豪雨で西予市野村町が洪水被害を受け、死者が出たのは、民主党政権時代に洪水対策予算を凍結したからだ」と、デタラメな言いがか

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。
7月に行われた参議院選挙では市民と野党が共同で応援した永江孝子さんが、与党の候補に8万6千809票の大差をつけて圧勝しました。
永江さんの3年間にわたる、平和のための真面目で地道な活動への評価と期待が、33万5千425票もの得票につながったことは間違いありませんが、安倍政権の年金破壊と消費税増税の庶民いじめに対し、市民と野党が共同・分担してそれぞれの役割を果たして闘ったことが大きな後押しになったことも事実です。愛媛での野党の勝利は、とりあえず安倍改憲の策動を阻止し、年金のマクロスライド制廃止と消費税廃止への足掛かりを付けたことになり、大きな成果があったと考えます。
ただ、今回の参議院選挙では、大変残念というよりは本当に許せないという事件がありました。

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。
7月に行われた参議院選挙では市民と野党が共同で応援した永江孝子さんが、与党の候補に8万6千809票の大差をつけて圧勝しました。
永江さんの3年間にわたる、平和のための真面目で地道な活動への評価と期待が、33万5千425票もの得票につながったことは間違いありませんが、安倍政権の年金破壊と消費税増税の庶民いじめに対し、市民と野党が共同・分担してそれぞれの役割を果たして闘ったことが大きな後押しになったことも事実です。愛媛での野党の勝利は、とりあえず安倍改憲の策動を阻止し、年金のマクロスライド制廃止と消費税廃止への足掛かりを付けたことになり、大きな成果があったと考えます。
ただ、今回の参議院選挙では、大変残念というよりは本当に許せないという事件がありました。

そのような中、今度は、市民の安全と人権を守る義務のある愛媛県警の刑事が、事件と全く無関係な市民を犯人にデッチ上げ不当逮捕するというこれまた警察権力の暴走事件が起きました。
私は、市民の人権を守る義務を負う松山

りをつけた上で、その「責任が永江さんにある」と、有りもしない事を捏造し、犯罪者扱いをしただけでなく、こともあろうにそれをSNSやペーパーで拡散するという大罪を犯しました。
私は、この国がネットウヨやヘイト天国化し、目指すべき「人間尊重社会の実現」から大きく遠のきつつあることに危機感を覚えます。
認知症なのか、健忘症なのか、私には分かりませんが、未だに謝罪や反省もしない、元とはいえ県政の権力者が堂々と人権侵害のキャンペーンを行ったことを、放置させたままにすることは松山市政としても絶対に許してはならないと考えます。

愛媛県警による不当逮捕と自白の強要は、重大な人権侵害であり、許されない！！
松山東署誤認逮捕問題
女性と映像の女 同一と誤信
多角的な確認怠る
有識者「ずさん捜査冤罪生む」
7月28日付 愛媛新聞

松山市定例市議会(年4回)に 10年間、38議会連続登壇を 続けています。

※2019年9月現在(連続登壇記録更新中)

2010年の松山市議会議員当選以来、全定例議会で質問あるいは討論を行ない、一問一答方式の導入をさせるなど、これまでのセレモニー化した議会に風穴を開け続けています



「一問一答方式」の導入で緊張感のある議会に
パネルを使って分かりやすい質問
客評する市長

市議会議員の一人として、申し訳ないという思いと県警に対する怒りでいっぱいです。事件が起きたプロセスを解明し、二度と本市の警察権力が暴走しないように、けん制するとともに「人権尊重市政実現の為に」という角度から最初は、本不当逮捕事件について質問します。

2面へ

学校現場を無視する藤田教育長の再任に反対！！

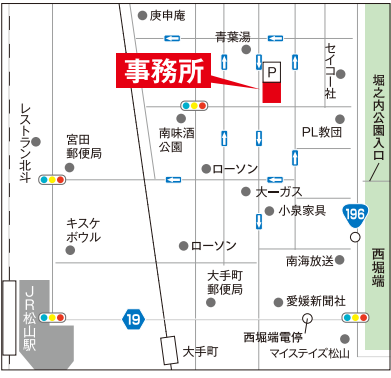
ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。
私は議案第101号
教育長の任命に同意を求めることについて、短く解りやすく反対の討論を行います。
教育長、藤田仁氏の再任について同意できませんのでその理由を述べていきます。
2015年に行われた、本市中学校歴史教科書選定において、本市教育委員会は、市内29の中学校の生徒に教科を教えるプロの先生が希望した教科書(東京書籍を21校が希望し、帝国書院を8校が希望)を選定せず、教師が誰一人、中学校がたの1校も希望しなかった戦争賛美の教科書と言われる育鵬社の教科書を選びました。
藤田教育長は前任期の3年間において本市教育委員会の歴史上、二度とあってはならない汚点を、拭い去る行動を起さずとしなかっただけでなく、今年度、再び育鵬社を選ぶという学校現場の意向を全く無視した、右翼史観丸出しの決定を継続しました。
本市立中学校29校から0対29で完全否定された教科書、その支持率ゼロ%の教科書を、子ども達に教える先生に比べ、著しく選定能力に劣る教育委員5人が、もちろん藤田教育長もその一人ですが、自分達の偏った思想信条を、再び学校現場に押し付け

なことは、許しがたい行為そのものです。
本来、公正中立でなければならない教育委員の使命を放り出して、学校現場を信用しなかっただけでなく、学校に無用な混乱をもたらし、再び本市立中学校への信用まで傷付けた事実は、負の歴史というだけでは済まされず、子ども達のためにならない教育長の再任など、到底同意できませんし、あってはならないと考えます。
中学校の主役は生徒たちです。生徒のために日頃から歴史教科書を研究し、生徒に教えるプロの歴史担当教師29校約80人が、300時間以上もかけて精読し、厳選した教科書が選定されず、素人の教育委員5人が僅か10分の会議で、先生や学校の意に反し選んだ教科書を、再び継続したことは、本市の生徒たちにとってこれほど不幸なことではありません。
何度も言いますが、私が申し上げたいのは、教育委員の思想信条はさておき、生徒たちが学ぶ大切な教科書の選定を行うのに、その前提ともしえる教科の先生達がベストと

教科書を、教科に全くの素人である教育委員がそれを否定し、それに反する教科書を決めていいのか？ということですが、分かりますか？
英語を教えることができない教育委員が、英語の先生の意向に反して、英語の教科書を決めるということが、あっていいのか？
楽譜の読めない教育委員が音楽の教科書を決めていいのか？ということですが、誰が考えても、二度とあってはならないと思いますが、藤田教育長には馬の耳に念仏の様です。
ここまで言うとうるの教育委員から「教科書の選定権限は教育委員会にある。教育委員が決めて何が悪い」と、聞き直りの声が聞こえてきそうですが、私から言えば、教育委員にベストな教科書の選定能力があるから権限を与えられているのではなく、ベストな教科書を選ぶ能力がある先生達が決めた教科書が、政治やワイロに左右されず、民主的に決められたかどうかを判断する権限、つまり承認する権限が与えられているということ、5人の教育委員は理解するべきではないでしょうか。
このまま行けば、私立の中学受験がますます激化しそうで、本市の子ども達のこと本心に心配でなりません。
新しい教育長には、市役所のOBを連続して登用するのではなく、長く教育になさわり、教育に関し、公正中立の立場を十分に理解する能力の高い人をお願いすることを求め、改めて藤田仁氏の再任には同意できないことを表明し、梶原時義の反対討論を終わります。

HPでは梶原の活動予定や全定例議会での質問登壇が動画でご覧いただけます。
市政他、何でも相談をお受けしています。ご連絡ください。
ホームページ 梶原ときよし 公式ホームページ 検索

〒790-0813 松山市萱町2丁目1-2
TEL 089-947-2258 FAX 089-947-2259
携帯 080-5669-8586
E-mail sizenha-812@lib.e-catv.ne.jp
●午後1時～午後5時まで(月～木)
●金・土・日・祝日はお休みです。
お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



議会質問

9月議会(一般質問より抜粋)

2019年
9月11日

愛媛県警による女子大生不当逮捕事件は、被害市民の尊厳を傷つけた重大な人権侵害であり憲法違反である。市民の人権を守る義務がある市長はこの事件をどう捉えているのか。

梶原議員

本年7月8日 愛媛県警松山東署は、全く無関係の女子大学生を窃盗事件の容疑者として、不当逮捕しました。事件は今年1月9日の深夜2時ごろ、タクシーから降車する際に運転手のセカンドバックを盗んだという容疑であった。女性は、逮捕前の5月と6月、2度にわたる任意の取り調べの時から、一貫して「全く身に覚えがない」と無実を主張し続けましたが、何一つ証拠もないのに7月8日午前中に家宅捜索を受け、昼ごろに手錠をかけられました。

事件を解決できないプレッシャーと証拠も提示できない焦りから、無謀にも自白の強要でカバーし、デッチ上げようとした松山東署の刑事たちは、一貫して犯人ではないと主張する女性に対し、犯人と決めつけて「犯人なら目の前にいるけど」「タクシー乗った記憶ないの?」「二重人格?」「罪と向き合え」「ごめんなさいをすれば済む話」「早く認めろ、認めないと終わらないよ」「就職決まってるんなら、大ごとにしたくないよね」など、執拗な自白の強要や黙秘権を

認めない発言が大声で行われたことも明らかになっています。



松山東署の刑事による自白の強要は明らか! 8月2日付 愛媛新聞

① 本市市民が被害者である本デッチ上げ不当逮捕事件が(自白強要取り調べの事実を含め)起きた真相を市として確認しているのか。

② 野志市長は、本市市民であるこの女性が、任意の取り調べ以来54日間にも及ぶ不安、恐怖、怒り、屈辱といった感情を、市民の安全

を守るべき愛媛県警の刑事から味わされたことに対してどう考えるのか。

③ 松山市議会は、全会一致で「誤認逮捕事件の検証と説明責任を果たし、再発防止を求める意見書」を可決しましたが、野志市長は、憲法違反の人権侵害行為を行った愛媛県警に対し、何ら抗議することもなく、何の記者会見も開いていません。市民の人権を守る義務がある立場から、この事件をどう捉えているのか。

野志市長の答弁

① 松山市は、県警を管理・監督する立場になく、取り調べなどの状況を調査する権限もないため、市で、事実関係を確認できません。

市民部長の答弁

②③ 今回の事案は、当事者の尊厳を著しく傷つけた重大な人権侵害であり、あってはならないことです。

県警は、当事者の名誉回復に向けて誠実な対応をし続けることはもちろん、誤認逮捕に至った原因等をしっかり究明し、こうした事案を二度と起こさないよう再発防止を徹底しなければならぬと考えています。

松山市には県警を監督する権限はありませんが、県警の刑事による松山市民の人権侵害に対し、事実確認を要求する事はできるのでは!!

梶原議員

中村知事は「女性の人生と尊厳を傷つける重大な人権侵害だ」と県警に対し、不当逮捕を非難して真相究明と再発防止を求め記者会見しました。

また山本国家公安委員長さえも「極めて遺憾、大変怒りを持っている、愛媛県警の再発防止を徹底させる」と表明していますが野志市長の会見は聞いたことがありません。

野志市長は事件発覚から2カ月もたつが、本市市民の人権侵害の不当逮捕事件に対し、何の抗議コメントも出さないのはどうしてなのか、怒りをもって県警に抗議するべきではないのかと思います、なぜ抗議しないのかを聞かせてください。

市民部長の答弁

県警は、今回の事案について、調査結果や再発防止策等を県議会の中で報告・公表すると発表しています。本市としては、その内容に注目したいと考えています。

なお、国家公安委員長は警視庁を所管する立場、県知事は県警の予算執行権者である立場からコメントされたものと認識しています。

松山市議会は、全会一致で今回の人権侵害を非難し、愛媛県警に説明責任と再発防止等を求める意見書を可決したが(梶原議員の発言)本市の最高責任者である野志市長は、それを行わないだけでなく、何のコメントも発せず「なぜ抗議しないのか」という質問にも答えません。松山市民の人権を守る義務を負う野志市長の人権意識欠如姿勢は許されぬ!!

梶原議員

本市は、いまだに警察からの本市市民の個人情報提出要請に対し年間約4000件から5000件もの戸籍謄本のほか、住民票、回答書などを市民に無断で警察に垂れ流し、交付し続けています。

① 捜査段階から逮捕状請求までの間で、愛媛県警から今回の被害者の何らかの個人情報請求があったのではないのか。

② 市民に無断で警察に市民の個人情報垂れ流し続けてきた本市の姿勢が、結果として守るべき市民の人権を侵した事件の「幫助」をしたことになることも考えられるが市長の見解を示してください。

市民部長の答弁

① 県警からの請求については、個別の案件となりますので、お答えはできません。

② 本市の姿勢と今回の案件を結びつける考えは当たらないと思います。

梶原議員

今回の誤認逮捕事件を教訓に、今後は「裁判所からの令状」を、警察への個人情報提供の判断基準にするなど、個人情報垂れ流しをやめて、本市市民の人権を守るべく、厳しい姿勢で臨むべきだと考えますが、市長の新しい人権基準を示してください。

野志市長の答弁

県警からの照会には、現在のところ、見直すことは考えていません。

本市から警察への法的な個人情報提供義務はなく、安易な垂れ流し交付は許されません。

事前の談合告発情報どおりで落札した松山市総合コミュニティセンター電気機械設備等保守保全管理及び運転業務委託入札は、松山市談合情報対応マニュアルにのっとり、公正取引委員会へ通報した上でやり直すように指導するべきではないか。

梶原議員

2019年3月27日に行われた「松山市総合コミュニティセンター電気・機械設備等保守保全管理及び運転業務委託」の指名8社による競争入札は、その前日の3月26日にあった談合告発どおりの内容で落札業者が決定しました。

告発内容は「明日の朝9時半から行われるコミセンの電気・機械設備等(保守保全管理及び)運転業務委託の入札は、既に落札業者がA社と決定しており、落札金額は2億9580万円である」という談合情報でした。

談合情報の信頼性を図る上で決定的な「入札対象件名」と「落札予定業者名」に加え、「落札予定金額」の正確な指摘は告発者が匿名が実名かに関わらず当事者以外には知り得ない情報であり、談合を疑うには十分な内容と言わざるを得ません。

本市の指定管理委託先である松山市文化・スポーツ振興財団は、松山市談合情報対応マニュアルに準拠して、公正取引委員会に通報するなどの具体的対応を行う必要があったと考えますが、本市の見解を示してください。

総合政策部長の答弁

財団に寄せられた情報は、いつどこで、どのようにして談合が行われたかといった具体的な情報もなかったことから、財団は、「調査に

値しない」と判断したということです。

ただ、開札後、一部(落札予定業者と落札金額がぴったり一致)が事前情報と同じであったことから慎重な対応として、全指名業者から事情聴取を行い、全指名業者から誓約書の提出を受けた上で、委託業者を決定したとの報告を受けています。

本市の談合情報対応マニュアルでは、開札後、結果と情報一致したから業者に誓約書を出させるのではなく、先ずは、入札前に公正取引委員会へ通報し、その後、業者から誓約書を取り、対応を協議することになっている。これでも適切な対応と言えるのでしょうか。

梶原議員

財団は「そもそも入札件名が異なっていた」などと、調査に値しない情報として、談合情報を隠蔽しましたが、隠蔽は絶対に許されません。

① 談合情報の提供者は二人いましたが、提供者の入札件名と実際の入札件名はどう異なっていたのか。「保守保全管理及び」という文言を省略しただけではないのか?

② 告発では、3月27日の朝9時半からの入札とも特定していますが、それでも入札案件が特定できず、入札件名が異なっていると判断したのか?



梶原とよよし(ネットワーク市民の窓)

2019年9月議会では、一般質問と学校現場を無視して暴走する教育長の再任に反対する討論で2度登壇しました。

③ 二人の談合告発情報は同じ入札件名を特定していましたが、文言の省略はさておき、財団が案件の特定ができないことはあり得ないと考えますが、以上3点お答えください。

総合政策部長の答弁

① 入札件名についてですが、今回、業務名を「保守保全管理及び運転業務」に変更しましたが、情報提供のあった件名は、「運転保守管理業務」と2年前に実施した入札件名と同じであったと報告を受けています。

② 次に、日時に関する情報は、入札日のみで時間に関する情報はなかったとのことですが、件名が、実際の件名とは異なっていたものの、得られた情報から今回の案件と特定したうえで内容を審議し、対応したということです。

案件が特定できた上で、落札予定業者と落札金額を指摘した内容の談合告発は、本市の談合情報対応マニュアルでは、公正取引委員会へ通報し、入札を中止することになっている!! 財団による官製談合として説明できない!!